よみがえる 天平の浪漫

いちはら国府絵巻

いちはら国府

ICHIHARA
KOKUFU

PRIDE
OF
ICHIHARA

市原商工会議所

1. 市原商工会議所の新たな取り組み

まちの元気づくり運動

PRIDE OF ICHIHARA

≪市原の誇りを目指して≫

経営発達支援の推進

地域経済の根幹を支える中小企業者及び小規模事業者の経営基盤の強化につながる伴走型支援の取り組みと会員の経営に役立つデータベースの構築

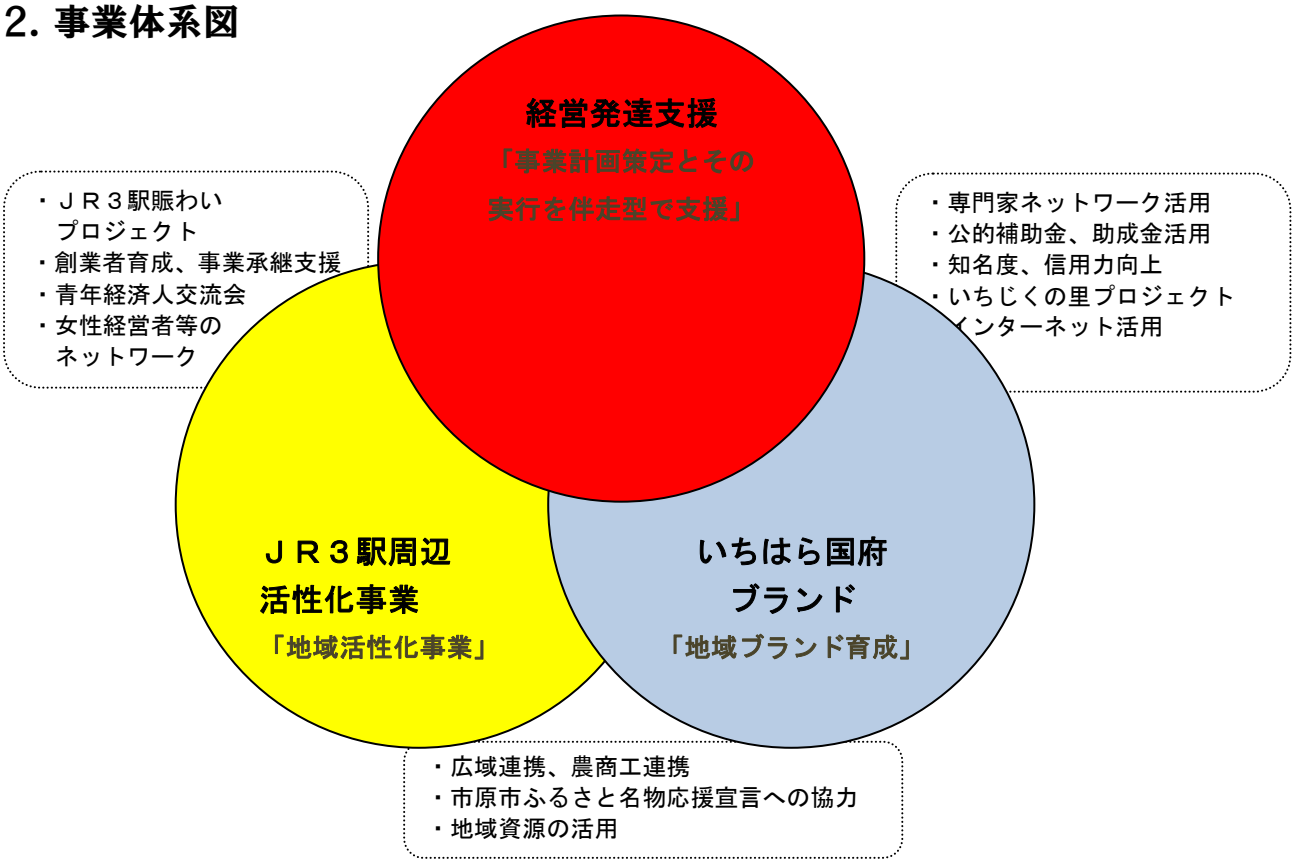
いちはら国府ブランドの推進

いちはら国府ブランドを旗印に、土産品、市原市の資源や特産品、企業など市原市の魅力を全国に発信していく地場産業育成の取り組み。

ＪＲ３駅周辺活性化事業

駅周辺に賑わいを持たせる「まちづくり運動」を展開。住民、企業、商店、行政等が責任と役割を明確化し、産業振興、交流人口・定住人口の増加を図る取り組み。

2. 事業体系図



3. まちの元気づくり運動メニュー

地域の消費喚起

≪プレミアム付共通商品券発行≫

国の地域活性化、地域住民生活等緊急支援交付金を活用し、
地域経済好循環に繋げるプレミアム付商品券を販売
平成２６年に２億１千万円、翌年１４億４千万円

臨海工業地帯と共に歩み続けるまち

≪政策提言活動≫産業振興計画を働きかける

住みやすい、働きやすい街の形成。交通（バス、ＪＲ）の
利便性を行政に働きかける

市原市産業振興ビジョン

農業・商業・工業・観光が連携して新しい産業が生まれるまち

☆アクション１「いちはら銀杏の会」

目的：市原市全域の産官学農観が一挙に揃う集い

まちのくらしを彩る地域産業が育つまち

～元気な中小企業を数多く育てていくことが商工会議所の役割～

☆アクション２「市原市の産業振興に関する調査研究」

目的：社会・産業構造の変化に対応した市産業の方向性・あるべき姿を検討し、実行性、実現性ある提言内容の検証。

☆アクション３「市原市で大切にしたい会社認定制度」&「経営革新講座」

目的：従業員や地域を大切にする（=幸せにする）会社の育成

≪認定企業には市と商工会議所がメディアへ強力にアピール≫

☆アクション４「市原青年経済人交流会」

目的：次代を担う青年経済人の研鑽の場、後継者育成の場として、経営資質の向上と企業の健全な発展を図る。

☆アクション５「伴走型経営支援」

当所がこれまで進めてきた伴走型の支援を更に充実させ、事業計画作成支援、販路開拓支援により経営課題の解決に努める

☆アクション６「いちはら国府ブランド事業」

目的：いちはら国府ブランド「ロゴマーク」を旗印に
市原市の魅力を全国に発信する。
市原市はかつて“国府”がおかれ、高度で雅な文化が花開いた関東の中心都市でした。このような文化や歴史を市原市民、商工業者の誇りとなるようブランド化を推進する。

①ブランド認定支援

≪いちはら国府プレミアム商品認定≫

・認定商品、リ×ミックス商品、いちじくの里プロジェクト商品の市原市の魅力ある商品を認定並びに選出

②「いちはら国府」ブランドの販路拡大支援

・金融機関主催の商談会にて百貨店等のバイヤーにいちはら国府ブランド商品をＰＰ

③いちはら国府カタログギフトの販売

≪高付加価値（ギフト）化支援事業≫

市原市の歴史的背景を軸に「雅さ」を
醸し出すカタログギフト。生産者や事業主の顔が見える安心
安全なギフト商品を提供する。

≪販路拡大支援～市原市の魅力を全国に発信～≫

千葉県アンテナショップ（東京都丸の内ＪＲタワー）に
おいて市原市の魅力あふれる商品やいちじくを活用した
新商品「いちはら国府ブランド」をＰＲ

市原市産業振興ビジョン

④いちじくの里プロジェクト

目的：農業生産者、商工事業者、観光業者、行政、支援機関が
広くスクラムを組み「市原に来る人・市原から行く人」
全てに市原市＝いちじくの魅力を伝えていくプロジェクト

☆アクション７「新たな賑わいを創出」

目的：市原市の都市交流拠点において、「ひと、モノ
文化」の交流とにぎわい創出を目指した「にぎわい市」
毎月１回（合計８回）を開催しました。

☆アクション８「ＪＲ３駅周辺活性化」

①駅ちか食べ歩きマガジンを発行

駅周辺にフォーカスをあてた飲食店の紹介冊子を発行。駅周辺の賑わいを創出する為、需要を検証。市民や企業からの関心も高く重版を行う。

②地域プロデュースにより活性化計画の策定≫

≪ＪＲ３駅周辺活性化協議会≫

臨海部企業、町会、各関係機関等の意見を集約し、駅周辺の賑わいの再構築を協議。
若手飲食店や商業者を中心に研究会が発足する。

≪臨海部企業・駅周辺町会長活性化懇談会≫

≪若手飲食店経営者、駅周辺商業者の活性化研究会≫

JR駅周辺の活性化に向けて

～　京葉線を市原市へ　～

想定される事柄
乗車率の増加、定住人口の増加、交流人口の増加
駅周辺の賑わい、公共交通機関の利便性など

（現状）

人口減少
H52 年には、
５万人超減少
見込み
小売販売店減少
需要減少と
競争力激化
超高齢化社会へ

第 1 ｽﾃｰｼﾞ

マーケットと計画策定
小売、飲食店数
昼間人口
消費者の意識
小売店の意識
駅周辺の利用
↓
賑わいの再構築

第 2 ｽﾃｰｼﾞ

街の賑わい創出
個店の育成
個店のﾈｯﾄﾜｰｸ
駅ちか利便性
とその仕掛け
創業の育成
資源とﾌﾞﾗﾝﾄﾞ
↓
駅周辺の活性化と新たな仕掛け

第 3 ｽﾃｰｼﾞ

交流人口の増加
市原市の魅力向上
駅中心の観光ﾙｰﾄ
いちじくの里へ
インバウンド
担い手の育成
↓
観光客（来る人）に魅力ある市原市へ

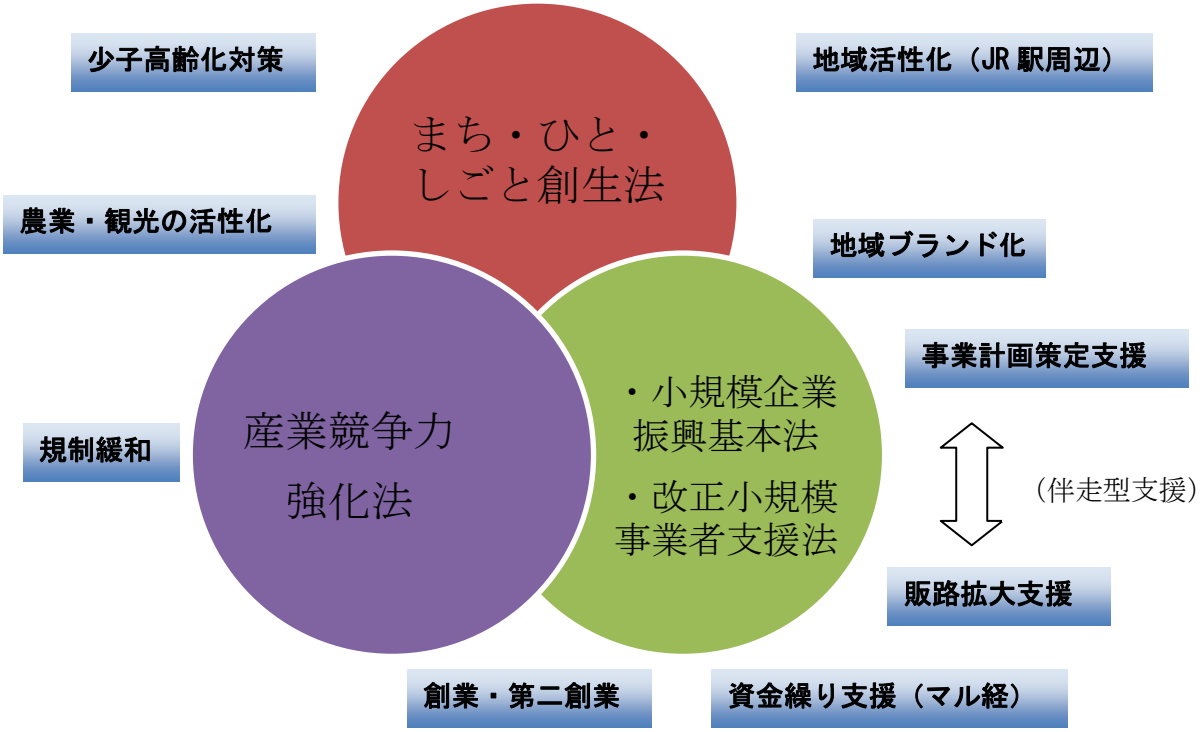
第 4 ｽﾃｰｼﾞ

定住人口の増加
京葉線延伸
定住人口の増加
高齢者にも
優しい
↓
人口増加に伴う都市化へ

将来像

産業都市いちはら
コンパクトシティ
資産価値の増加
行政機能の集積
観光イメージの
定着
↓
駅周辺の魅力向上へ

（商工会議所を取り巻く新しい法律）



市原商工会議所新春賀詞交歓会

５００名もの大勢の方の参加を頂き、盛会な新春の集いを開催いたしました。